

## 学校における暑さ対策について

### 1 深刻化する夏の暑さについて

近年、日本全国を記録的な猛暑がおそい、熱中症が大きなニュースとなっています。

令和6年4月には、熱中症警戒アラートの一段上の「熱中症特別警戒アラート」が、政府により新たに創設され、過去に例のない危険な暑さが予測され、人の健康に係る重大な被害が生じる恐れへの対応が開始されました。

また、危険な暑さから避難するための場所として、各自治体において「クーリングシェルター」を指定できることとなり、休憩スペースのある公共施設や、市内協力事業者（店舗や金融機関等）において一般開放されています。

### 2 愛知県熱中症警戒アラートの発表状況について

熱中症警戒アラート（令和2年度に気象庁が関東甲信地方で試験的に実施、令和3年度から全国での運用開始）については、全国を58に分けた府県予報区等を単位として気象庁と環境省が共同で発表することとされています。

愛知県でも、令和2年8月から、県民に熱中症に対する注意を喚起し、その予防行動を促すため、気象条件から特に熱中症に対する警戒が必要と考えられる場合、愛知県熱中症警戒アラートを発表しています。

#### (熱中症アラート発表条件)

- ・暑さ指数（WBGT）が33以上となることが予測される場合

※愛知県内11か所の観測点のうち、いずれかの地点において基準を超えることが予測される場合に、県内一律に発表されます

※試験的導入であった令和2年度では、アラート発表対象期間が8月中旬から9月中旬の約1ヶ月間でしたが、全国運用が開始された令和3年度以降は、4月下旬から10月下旬の約半年間が対象期間となっています。

#### (愛知県での熱中症警戒アラート発表状況) ※環境省HPデータ加工

愛知県における熱中症警戒アラート発表状況（9/18現在）（環境省HPデータ加工）

年度	開始日	終了日	期間日数	アラート発令回数							合計
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	
R2年度	R2.8.12	R2.9.15	35	/	/	/	/	/	/	/	/
R3年度	R3.4.28	R3.10.27	183	0	0	0	7	14	0	0	21
R4年度	R4.4.27	R4.10.26	183	0	0	2	4	7	0	0	13
R5年度	R5.4.26	R5.10.25	183	0	0	0	11	15	2	0	28
R6年度	R6.4.24	R6.10.23	183	0	0	0	19	21	4		44

※R2年度については、関東甲信地方での試験的実施であったため環境省HPに愛知県データなし

### 3 学校における対応について

教育委員会学校教育課

#### (1) 熱中症に関する豊川市立学校への依頼について

例年、5月中旬(今年度は5月15日付)に「熱中症事故の防止について」として各小中学校に依頼しています。今年度は、5月21日付で愛知県より『熱中症予防に向けたガイドライン』の改訂について(資料1-2)が通知されたため、本市でも改訂部分を修正したものを5月28日付で再度依頼しています。

この依頼をもとに、学校ごとに保護者へまなびポケット等を活用して周知しています。  
なお、この依頼文書の具体的な内容は以下のとおりです。

#### <校内での生活>

- ・ 体育の授業や運動部活動の活動中については、熱中症の対策を優先する
- ・ 授業中であっても、こまめに水分補給できるよう配慮する
- ・ 部活動などの活動時は、激しい運動は控えるなど、活動内容を工夫するとともに、こまめに休憩時間を確保する
- ・ 調節可能な服装について配慮する
- ・ **WBGT(暑さ指数)が33以上の場合は、活動を中止する(改訂事項)**  
※ここでいう活動については、【資料1-2】「熱中症予防に向けたガイドライン(令和6年5月版)」を参照。

#### <登下校>

- ・ 帽子の着用、日傘の使用について声をかける
- ・ ネッククーラー等の冷却グッズ等は、申し出があれば考慮する
- ・ 登下校の途中にある安全な場所ですみやかに給水させる

#### (2) 各種会議等での依頼及び周知について

上記の「熱中症事故の防止について」を依頼後、速やかに校長会や教頭会、教務主任会、生徒指導主任会、養護部会等において熱中症予防の徹底を再度お願いしています。

#### (3) 学校で取り組まれている熱中症対策について

- ・ WBGTを計測して児童生徒の活動に支障がないか確認する。
- ・ こまめな健康観察を行っている。
- ・ 特別教室での授業を教室で行う。
- ・ 運動会や体育大会の開催時期を変更する。
- ・ 部活動の時間や内容を変更する。
- ・ 部活動や体育の授業での帽子の着用を推奨する。
- ・ 水道水によるミストの稼働を行っている。
- ・ 校内一斉放送による休息及び給水を指示する。
- ・ 長い放課など、外で遊ぶのをやめている。

令和6年10月4日

(豊川市総合教育会議)

- ・水分補給のためにスポーツドリンクや塩分チャージ用のタブレットを認めている。
- ・ランドセルではなく、リュックや手さげかばんなどの使用を認めている。

#### (4) 部活動における夏の市内大会での対応について

愛知県中小学校体育連盟豊川支所より「健康・安全面に配慮した大会運営を」を各種目支部長へ通知し、熱中症対策を含めた種目ごとに対応を定めています。種目ごとの対応については、別紙一覧表(資料1-3)のとおりとなります。

市内大会では、熱中症対策による大会の順延や延期及び中止はなく、熱中症による救急搬送もありませんでした。東三大会においては、熱中症指数の上昇に伴い種目によっては、試合日程の順延が行われました。

## 4 学校施設における空調設備について

教育委員会庶務課

### ①空調設備の設置状況

#### (1) 設置状況

令和6年6月30日現在

種類	室の種類	保有室数	設置室数	設置率	備考
小中学校	普通教室	654	654	100%	※1
	特別教室	295	82	27.8%	※2
	体育館等	36	0	0%	※3

※1：特別支援学級含む

※2：図書室、コンピュータ室等含む

※3：武道場等含まず

### ②今後の設置(改修)計画

#### (1) 管理諸室等空調設備改修事業

更新時期を迎えている機器の計画的な改修工事

#### (2) 普通教室(特別支援含む)空調設備設置事業

学級数の増加に伴う未設置教室への新たな空調設備の設置工事

#### (3) 小中学校特別教室空調設備設置事業

令和9年度夏までに特別教室への空調設備設置工事

令和7年度より設置工事予定 旧豊川市、旧一宮町

令和8年度より設置工事予定 旧音羽町、旧御津町、旧小坂井町

令和6年10月4日  
 (豊川市総合教育会議)

5 移動式冷房機器所有台数調査

小学校名	大型冷風機	(うち体育館)	大型扇風機	(うち体育館)	スポットクーラー	(うち体育館)
豊川小	0	0	4	2	12	2
東部小	4	0	3	3	0	0
桜木小	4	0	2	2	0	0
三蔵子小	3	0	7	7	0	0
千両小	2	0	8	6	0	0
牛久保小	3	0	11	8	0	0
中部小	5	0	9	9	0	0
八南小	4	0	4	4	0	0
平尾小	1	0	4	4	0	0
国府小	2	2	0	0	0	0
桜町小	3	1	5	2	1	1
御油小	2	0	3	3	0	0
天王小	2	0	3	3	0	0
代田小	4	0	2	2	2	0
金屋小	2	0	8	8	0	0
豊小	4	2	9	5	0	0
一宮東部小	4	0	3	3	0	0
一宮西部小	4	1	4	4	1	0
一宮南部小	2	1	0	0	0	0
萩小	1	0	2	2	1	0
長沢小	2	0	0	0	0	0
赤坂小	2	2	3	0	0	0
御津北部小	3	0	6	6	0	0
御津南部小	4	1	7	7	0	0
小坂井東小	2	0	6	6	0	0
小坂井西小	5	0	7	5	0	0
小計	74	10	120	101	17	3
中学校名	大型冷風機	(うち体育館)	大型扇風機	(うち体育館)	スポットクーラー	(うち体育館)
東部中	5	0	8	2	0	0
南部中	1	0	12	3	2	0
中部中	0	0	3	3	2	0
西部中	2	0	6	4	1	0
代田中	3	0	6	0	0	0
金屋中	4	1	1	1	0	0
一宮中	2	0	4	2	0	0
音羽中	7	0	9	9	2	2
御津中	2	0	8	4	2	0
小坂井中	3	0	9	4	5	0
小計	29	1	66	32	14	2
合計	103	11	186	133	31	5

※R6. 8. 23現在

## 熱中症予防に向けたガイドライン

令和 6 年 5 月

活動場所における WBGT	分類	管理職	学校行事等の責任者	担当者 (学級担任 教科担任 行事担当者等)
31℃以上	ア 屋内外で身体を動かす活動 (体育授業 体育祭、球技大会 校外活動、合宿等) イ 屋内の活動 (始業式、終業式 文化祭、全校集会 講演会等)	○原則、中止を検討 ⇒ 指示 (休止、延期、内容の変更等を含む) (体育授業は活動場所及び内容の変更)	①生徒等の健康状態の情報収集 ②WBGT測定器による会場の環境状態の把握 ③①と②について管理職に報告し、行事等の中止又は内容の変更及び短縮について判断を仰ぐ	<b>【対応例】</b> ①生徒等に対して、給水指示を徹底する。 また、涼しい場所で一定時休養するよう指示する。 ②生徒等の健康状態の確認 ③WBGT測定器による環境状態の把握 ④②と③について管理職又は責任者に状況を報告
31℃未満 28℃以上	ア 屋内外で身体を動かす活動 イ 屋内の活動	○原則、活動時間の短縮又は中止を検討 ⇒ 指示		<b>【対応例】</b> ①生徒等の健康状態の確認 ②WBGT測定器による会場の環境状態の把握 ③①と②について管理職又は会場責任者に状況を報告 <活動する上での留意点> ア常に休憩できる日陰や涼しい環境の確保 イ直近数日間の健康観察において問題がないか確認 ウ個人の心身の状況を考慮し運動強度を軽減 エ定期的な休息時間の確保 オ熱中症の兆候に注意 カ適宜水分や塩分を補給できるよう配慮
28℃未満 25℃以上	ア 屋内外で身体を動かす活動 イ 屋内の活動	○定期的な休息を取り入れる等必要な指示		①生徒等の健康状態の情報収集 ②WBGT測定器による会場の環境状態の把握 ③①と②について管理職へ報告する
25℃未満	ア 屋内外で身体を動かす活動 イ 屋内の活動	○状況把握に努め適宜必要な指示	①生徒等の健康状態の情報収集 ②WBGT測定器による会場の環境状態の把握 ③①と②について管理職へ報告する	①生徒等の健康状態の確認 ②WBGT測定器による会場の環境状態の把握 ③①と②について管理職に報告し、行事等の中止又は内容の変更及び短縮について判断を仰ぐ

33℃以上の場合は、活動を中止する

## 豊川市中学校総合体育大会熱中症対策について（各競技の対応）

- ・ 1時間ごとに各会場でWBGTの数値を計測し状況を確認する。（副部長が確認）
- ・ WBGT31以上では、「特別な場合以外は運動を中止する」その場合あらかじめ決めた以下の方法で対応する。  
（大会長を中心に各競技で判断する）

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 31以上になった場合の対応</li> <li>・ 試合の終わらせ方・勝敗の付け方</li> <li>・ 中止になった場合の順延の仕方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東三大会に向けての順位の決定方法</li> </ul>
軟式野球	<p>《31以上になった場合の対応》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 試合時間を90分とする。</li> <li>・ 4回終了時、休息の時間を10分確保する。</li> <li>・ 守備時間が長くなった場合、給水時間を審判と本部の判断で行う。</li> <li>・ 試合前ノックをなしにする。</li> <li>・ 試合の開始時間を8:30分とする。</li> </ul> <p>《試合中にWBGT33を超えた場合》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 後日特別継続試合とする。その場合、日程をずらして対応する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 試合を行うことができなかった場合、残った学校のうち、ポイントの高い学校を選出する。（1年間の大会の勝ち数をポイントとして集計し選出する）</li> </ul>
ソフトボール	<p>試合開始前にWBGTを測定。31以下であれば、試合（80分）をやりきります。</p> <p>《31以上となった場合の対応》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日陰で体調のチェックを行う。</li> <li>・ 15分以上守備についている場合は、3分間の給水タイムを取りながら、試合続行。</li> <li>・ 攻守交代の際に1分間の休憩をとる。</li> </ul> <p>《33以上となった場合》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ その時点で終了とする。</li> <li>・ 残った試合は予備日で扱う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 予備日を使えない→春の結果を採用し、東三出場校を決定する。</li> </ul>
サッカー	<p>《31以上になった場合の対応》</p> <p>⇒前後半それぞれに飲水、クーリングブレイク（3分or4分）を設ける。</p> <p>《試合の終わらせ方・勝敗の付け方》</p> <p>⇒試合途中で中止をせざるを得ない場合、順延し中断時間から試合再開する。</p> <p>《中止になった場合の順延の仕方》</p> <p>⇒予備日（13日）を含め、試合順通りに順延する。</p> <p>⇒当初予定していた会場で大会運営が難しい場合、最低限東三総体出場校（7校）を決定する試合を優先的に実施する。</p>	<p>⇒代表校が決定しているが順位が確定していない場合は、該当校による抽選で順位を決定する。</p> <p>⇒代表校が決定していない場合、試合順を再調整し、最低限代表校を決定するための試合を行う。代表校が決定したら、該当校による抽選で順位を決定する。</p>
ソフトテニス	<p>《31以上になった場合の対応》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ファイナルゲームを4ポイント先取にする。</li> <li>・ ファイナルゲーム前に3分間の給水時間を確保。</li> <li>・ ラリーが長く続いたあとなど、適宜給水を促す。</li> </ul> <p>《試合の終わらせ方・勝敗の付け方》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現在行っているゲームが終わるまで実施して中断し、翌日に途中から再開する。</li> </ul> <p>《中止になった場合の順延の仕方》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個人戦から実施し、順延となった場合は個人戦の日程を優先して進める。</li> </ul>	<p>○団体戦の選出方法</p> <p>①個人戦のみ実施できた場合 ソフトテニス部会の規定にのっとりた方法で個人戦のポイントを計算し、総数の多い学校から順に東三大会出場校を選出する。（男子4校、女子3校）</p> <p>②個人戦、団体戦ともに実施できなかった場合 4月末の愛知県選手権豊川予選会（個人戦）の結果をもとに、各校1、2番手のポイントを合計し、ポイント総数の多い学校から順に東三大会出場校を選出する。</p> <p>○個人戦の選出方法 各校に1ペアずつ出場枠を割り振り、愛知県選手権豊川予選会の上位4ペアの学校に追加の枠を割り振る。</p>
バレーボール（男子）	<p>《31以上になった場合の対応》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 暑さ対策として給水のためのタイムアウトを設定しているため、規定通りに給水を行いながら試合を行う。</li> </ul> <p>《33を超えた場合》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ その時点で放送を入れて中断をする。試合途中の場合、完了したセットと中断したセットの得点は翌日に持ち越し、途中から実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 予備日を含めた4日間のうちに順位を決定できるようにする。</li> <li>・ 4日間で決まらない場合は、顧問者を開催し、過去の大会成績や所属選手から東三大会に進出するであろうチームを可能な限り選出する。それでも決まらない場合は、抽選とする。</li> </ul>
バレーボール（女子）	<p>《熱中症対策として》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 少しでも早く大会を終えられるようにするために、3セット目は15点マッチで行う。</li> </ul>	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・31以上になった場合の対応</li> <li>・試合の終わらせ方・勝敗の付け方</li> <li>・中止になった場合の順延の仕方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東三大会に向けての順位の決定方法</li> </ul>
バスケットボール	<p>《31を超える超えないに関わらず熱中症対策》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1日目は試合を正規タイムではなく、時計を止めないランニングタイムで実施する</li> <li>・各Q4分前後にバイオレーション、ファウル、アウトオブバウンズが起きたタイミングで、1分の給水タイムを入れる</li> <li>・大会長を中心に話し合い、試合を中断する場合、様子を見ながら、その試合が終了するまで実施する。</li> </ul> <p>《33を超えた場合》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・試合を中止し、翌日に持ち越す。</li> <li>・翌日や予備日で実施できるように協議をし、試合時間を短くするなどして調整する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予備日を入れた3日間で順位を決定できるようにする</li> <li>・それでも決定できない場合は、前回までの大会結果を考慮したうえで決定するか、もしくは抽選を行う。</li> </ul>
弓道	<p>《31以上となった場合》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・順位決定戦を簡略化してスピードアップを図る。</li> <li>・召集にゆとりを持たせる。</li> <li>・表彰式を省略してスピードアップを図る。</li> <li>・弓道着を脱がせて半そで、ハーフパンツにて試合を行う。</li> </ul> <p>《33以上となった場合》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・試合はその立で終了とする。</li> <li>・残った試合は予備日を使う。</li> </ul> <p>《特別警戒情報が出た場合》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・試合は予備日に行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予備日が使えなければ各校道場で行い、通信制にて順位決定及び東三大会出場チームを決定する。</li> </ul>
卓球	<p>《31以上になった場合の対応》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・試合が終わったら5分間の休憩をとり、給水をとらせる。</li> </ul> <p>《試合の終わらせ方・勝敗の付け方》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・WBGTが31を超えた場合、1セット後に1分間の休憩、給水をとらせて、試合を行う。</li> <li>・WBGTが33を超えた場合、すぐ中止になる。予備日に、そのセットから始める。</li> </ul> <p>《中止になった場合の順延の仕方》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中止になった場合に、次の週の御津体育館で続きの試合をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・団体戦(1日目)が午後から中止の場合、2日目の個人戦が全てできた場合は、予備日に例年通りの決勝トーナメントの続きを行い、順位を決定する。</li> <li>・個人戦(2日目)のみが午後から中止の場合、予備日の御津体育館で午前中の時間を使って5回戦から行う。</li> <li>・団体戦も個人戦も午後から中止の場合は、<b>予備日に</b>団体戦の決勝トーナメントを行ったあとに、個人戦を始める。</li> <li>・<b>予備日が中止になってしまった場合は</b>、団体戦はAリーグとBリーグの1位が1位または2位、AリーグとBリーグの2位が3位または4位になる。</li> <li>個人戦はシード順で、順位を決める。</li> </ul>
剣道	<p>《31を超えた場合の対応》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こまめに水分補給を促し、休憩をとりながら試合を続行する。</li> <li>・気温の上昇により危険度が高いと予想される場合は、開会式やアップの時間を短縮したり、試合時間を短くしたりすることで日程を前倒しで行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・過去の結果をもとに各校顧問で検討し、シード順を決定する。</li> </ul>
柔道	<p>《31以上になった場合の対応》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポットクーラーを第1試合場に集中させ、第1試合場のみで試合を行う。それでも第1会場が31を超えているようであれば、様子を見て、延期するかどうかを判断する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・監督・顧問で過去の大会成績を考慮したうえで決定する。</li> </ul>
陸上競技	<ul style="list-style-type: none"> <li>・熱中症指数の予報を確認し、必要であれば競技開始時間を30分前倒しにする。</li> <li>・本数のあるフィールド種目は本数制限を設ける。</li> <li>・予備日もできなかった場合は中止とする。</li> </ul>	
水泳	<p>東三大会の基準に合わせ、35以上（熱中症特別警戒情報）が出ない限りは大会を行う。途中で発令された場合は、中止し翌日に延期する。予備日になった場合は、残っている種目のみ実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2日連続で開催できない場合は、別の大会での正式タイムを採用する。なければ校内プールで計測し、それを正式タイムとして採用する。</li> </ul>

※各種目準備が整い次第大会を開始し短時間での開催に努める。